

第10回 日常診療経験交流会

日時 11月30日
10:00~16:10

参加費

会員・スタッフ無料

未入会歯科医師2万円

※午後の文化企画は無料でご参加いただけます

場所

グランキューブ大阪10F

(大阪府立国際会議場) 大阪市北区中之島5-3-51

■ タイムスケジュール

【午前の部】 10:00~ 分科会 ①医科外来 ②在宅医療 ③自由題 ④歯科

【午後の部】 13:15~ 記念企画 (詳細は以下)

※市民の方も参加いただけますが、内容は医療従事者向けです

口内・腸内細菌の意外なお仕事 - 健康長寿への道 -



「口から始まる健康寿命
～口内フローラ～」

講師

植野 高章 氏

(大阪医科大学 歯科口腔外科学教授)



「ここまでわかつてきた
腸内細菌と健康の科学」

講師

入江 潤一郎 氏

(関西医科大学 糖尿病科 診療教授)

最近、腸内フローラ、オーラルフローラという言葉をよく耳にするようになった。馴染みやすいようで、意味がよくわからない言葉「フローラ」は、ラテン語ではローマ神話の花の女神、医学的には常在細菌叢を意味する。どうやら、消化管の常在菌が花畠のように菌叢を形成することから、腸内フローラ、口内フローラという言葉として広く普及していると考えられる。そして、医学分野では、この細菌叢がヒト固有の特徴を持ち、菌叢構成比率やその乱れが全身の健康にさまざまな影響をあたえることが解明され注目されている。

細菌叢研究は、次世代シーケンサーを用いたメタゲノム解析によってその菌叢構成が明らかとなる。特に興味深いのは、口腔細菌叢と胃・腸内細菌叢が密接に関連していること、そして口腔内細菌叢も、動脈硬化、糖尿病、自己免疫疾患、認知症、妊娠合併症などのさまざまな全身疾患に密接に関連することである。

口内フローラ(=口腔内細菌叢)について理解を深めるためには、マイクロバイオータ、マイクロバイオーム(マイクロバイオータとそれが持つ総体的な遺伝子)、多様性という言葉を理解しなければならない。300年前にオランダの科学者レーウェンフックが顕微鏡を用いて歯に付着する微生物を観察し、微生物の特定・分析の研究の幕開けとなった。

口腔内細菌叢(=オーラルマイクロバイオーム)の研究は、口腔内の微生物環境がヒトの健康にどのような影響を及ぼすのか、つまり、口腔健康の維持が健康寿命をのばすことにどのように貢献することを解明していくであろう。口腔の健康を担う歯科医療においても口腔細菌叢の研究は広がりつつある。もともと歯科治療は微生物との戦いであったが、世界に類を見ない超高齢社会をむかえた日本が、世界に先んじて口腔健康と健康寿命延伸を展開していくことは新たな歯科医療のあり方の幕を開けることが期待できる。この講演から歯科医療の新たなゴールをお伝えできれば幸いである。 (抄録より一部抜粋)

近年、細菌の遺伝学的解析技術の進歩により、生物に共生する細菌の構成が容易に分かるようになってきた。人体においては、体表の部位毎に共生する細菌が異なり、また個人差も認められること、その共生する細菌叢は個人で概ね保存されていることなどが明らかされている。

口腔から肛門までの腸管に共生する腸内細菌にも個人差が認められ、その差異が宿主であるヒトの疾病発症に関与していることが報告されている。消化管の疾患のみならず、糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病や肥満症など生活習慣に関連する疾病、パーキンソン病などの神経疾患、喘息などの免疫疾患、さらには免疫チェックポイント阻害薬による腫瘍免疫などとの関連も明らかになっている。また腸内細菌は疾病の指標となるのみならず、宿主の病態を修飾していること、さらに治療標的になることも注目を集めている。

疾病に限らず、健康の維持・増進の視点からも腸内細菌と腸管内代謝産物は注目を集めている。マラソンランナーや駅伝選手が多く保有する腸内細菌が見いだされ、その細菌が宿主の運動能力を補助していることが明らかにされた。さらに腸内細菌への介入により長距離走のタイムが短縮したことも報告されている。他にも睡眠へ関与する腸内細菌の特徴も明らかにされ、ヒトの生活全体に腸内細菌と腸管内代謝が影響を与えていていると考えられる。

腸内細菌へ影響を与える介入としては、やはり食がもっとも重要である。腸内細菌の機能を理解し、食が宿主であるヒトに与える影響の理解も進んでいる。

本講演では、疾病の治療と予防、また健康増進について腸内細菌の視点から解説を試みたいと思う。

(抄録より一部抜粋)

■ お申込み

お申込みは右記のQRコードから
保育(無料)・お弁当(1,600円)などの注文は、お申込みフォームで



主催

大阪府歯科保険医協会 / 大阪府保険医協会

TEL 06-6568-7731
FAX 06-6568-0564